

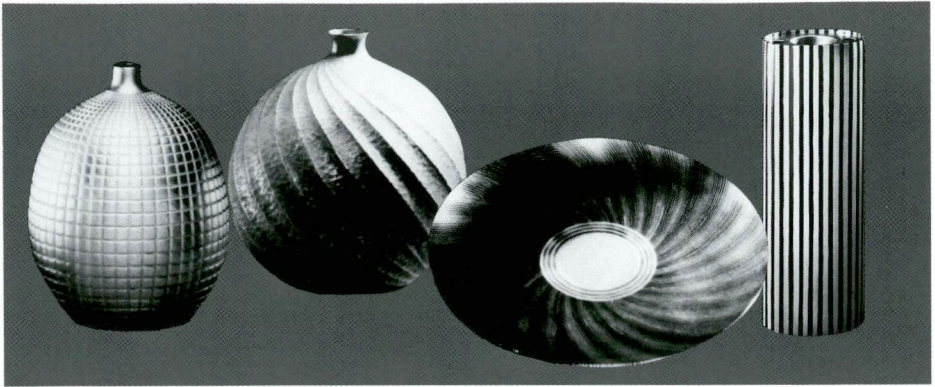
日本産業映画奨励賞
優秀映画鑑賞会推薦

伝統工芸の名匠

鍛金・関谷四郎

——あしたをはぐくむ——





日本の伝統工芸の中でも独特の領域をもつ鍛金。常に新しい金属の美を追い求める人間国宝・関谷四郎さんは、鍛金の技術を保持する貴重な打物師だ。作品は、花生け、壺、接合せ皿など多彩である。しかもその作風には現代感覚が盛り込まれ、器物そのものの情感がみずみずしいまでに表現されている。

映画の中で制作される花器は、銀と銅、赤銅の3種の地金を用いる。鍛金の中でもむづかしいとされる接合せはぎあわの技法。それぞれ異なる素材の性質に応じた熱処理によって、ゆっくり時間をかけて熔接する。その動作の一つ一つに長い修練の手さばきが見られる。高さ30センチ、直径11センチの簡素な形のうちに金属の清楚な趣きを生かした「花生け」が誕生する。

ところで、「鍛金を芸術にまで高めるためには、先ず技術の練磨が必要だが、同時に人間の修業もまた大切」と関谷さんは考えている。鍛金を志ざす人たちに自分の仕事場を開放しているのも、技術はもちろん、仕事にたずさわる心を肌で感じとってもらいたいからである。



作 品 名：シリーズ〈伝統工芸の名匠〉
「鍛金・関谷四郎」
—あしたをはぐくむ—
(35mm/カラー/30分)

企 画：財団法人ポーラ伝統文化振興財団

製 作 協 力：株式会社日経映像

製作スタッフ：製作・監督・小谷田 亘

撮影・高畔幸一

照明・松橋仁之

編集・井上正司

音響・佐藤日出夫

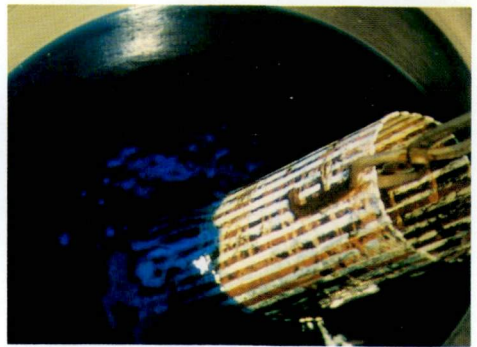
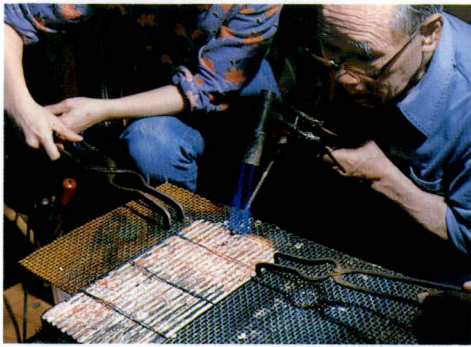
音楽・牧野由多可

ナレーター・伊藤惣一

協 力：文化庁文化財保護部
生け花小原流 工藤和彦

関谷四郎・年譜

- 明治40年 2月11日秋田市保戸野新町に生まれる。
- 昭和2年 上京して故河内宗明に師事、修業する。
- 昭和37年 この年より日本伝統工芸展に出品。入選を続ける。
- 昭和38年 伝統工芸新作展で奨励賞
- 昭和40年 伝統工芸新作展で優秀賞
伝統工芸本展で教育委員会賞
- 昭和41年 伝統工芸新作展の審査員となる。
- 昭和43年 伝統工芸本展で総裁賞
- 昭和44年 伝統工芸本展の鑑査員。以後、招待出品を続ける。
- 昭和45年 新匠工芸会の審査員となる。
- 昭和48年 新匠工芸会展20周年記念展で特別賞
- 昭和49年 紫綬褒章を受章
- 昭和52年 重要無形文化財「鍛金」の保持者に認定される。
- 昭和55年 勲四等旭日小綬章を受章。
- 昭和60年 現在、日本伝統工芸展、人間国宝新作展、日本伝統工芸工部会展、新匠工芸会展などに作品を発表。



鍛金技法について

金属工芸を加工技術面で大別すると、鑄金、鍛金、彫金と分けられる。鑄金は金属を溶かして形を作る方法、鍛金は金属を槌で打ちながら成形する法、彫金は金属に鑿こたなどで模様を彫りつける方法である。

我が国の伝統的鍛金技法は、刀剣類鍛造と、打物、鍔うちもの起ついきと称する技術とあり、この技法は古くから金物の佛具、武具、器物などの制作に用いられた。

鍛金に使用する地金は、金、銀、銅、真鍮、鉄、錫、鉛などで、工具は鉄床や各種の当金を据える木台、金槌、木槌、鑿のみなどを使う。工程の中で機械を使用することはほとんどなく、その技術は工人の手作業での永年培われてきた感覚と知識によって制作されるのである。

Pola Foundation for the Promotion of Traditional Japanese Culture

財団法人 **ポーラ伝統文化振興財団**

〒141-0031 東京都品川区西五反田2-2-10 ポーラ第2五反田ビル2階
TEL.03-3494-7653 FAX.03-3494-7597